

沿岸重要資源調査*

武田 保幸・阪本 俊雄

目 的

昭和61年度南西海区沿岸重要資源調査要綱に基づく。

調 査 内 容

200カイリ水域内漁業資源調査指定魚種以外のカタクチイワシ、ウルメイワシ、モロ、オアカムロなど主に沿岸広域性多獲性浮魚類の体長、体重、生殖腺等の生物調査と田辺、南部町各漁協のまき網努力量、漁獲量調査を行なう。

結 果

本年度の生物測定状況は表1のとおりである。それらの測定結果は資料4に整理した。この内、カタクチイワシとウルメイワシの体長組成を図1、図2に示した。カタクチイワシは周年10cm前後の

表1 各魚種の体長測定状況

魚 種	尾, 1986.4~1987.3												計
	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
カタクチイワシ	60	380	201	150	70	120	—	67	—	—	—	—	1,048
ウルメイワシ	225	439	226	599	237	394	285	267	228	—	63	—	2,963
モ ロ	22	109	—	—	—	65	236	49	69	74	21	69	714
オアカムロ	—	—	101	62	128	178	—	64	178	63	65	—	839
アカアジ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	69	—	—	69

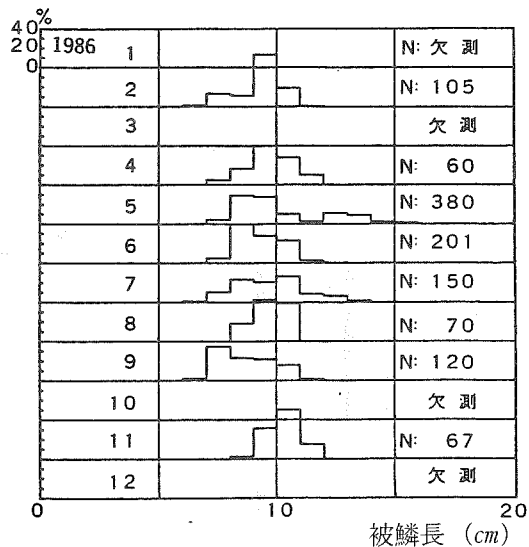


図1 カタクチイワシ体長組成

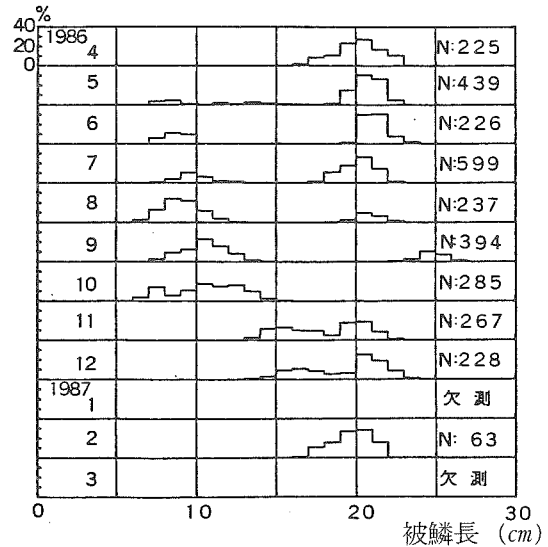


図2 ウルメイワシ体長組成

* 漁業資源調査費による。本調査結果は南西海区水産研究所（高知）に報告し、昭和62年3月の南西海区ブロック資源担当者会議において概要を説明した。

ものが漁獲されている。漁具選択性が強く現れていて、これだけの調査からでは本種の群構造を窺い知ることはむづかしい。ウルメイワシは5月に体長8cmのものが加入し、10月には約12.3cmに生長している様子がわかる。冬期はマイワシと同じくこの当才群は逸散する。また体長約20cmの群は春～秋に黒潮の沿岸域への貫入が強くなるとこれに乗って来遊し、それまで滞留していたマイワシと交代する。本種の漁獲量変動は当才群にしても約20cmの大型群にしても黒潮と密接な関連がある。

漁獲量、努力量調査結果は資料1、2、3に整理したとおりである。